

～輝きの子育て～

子どもと共に絵本を楽しむ

明けましておめでとうございます。新元号が発表されてから、早八ヶ月が過ぎ、令和二年が始まりました。「令和」と言う元号は新聞の世論調査では、80%近くの方が「よい元号だと思う」と感じたようです。音の響きが美しく、言葉の意味も良いと言われます。「令」はうるわしい、気品ある、整った美、端正な美を表すと言われます。令和の「和」は国と国との間に争いが無い状態、まさに平和の「和」です。令和二年が災害もなく、戦争もなく、皆が心穏やかに過ごせることを心より願っております。

「一年の計は元旦にあり」と言うことわざがあります。

今年の目標は「子どもと共に絵本を楽しむ」は如何でしょうか？

幼年期の子どもはたいへんな勢いで成長しています。この成長の時期にできるだけ質の高い物を伝えられたらと思います。

絵本を読んでもらっている子どもは言葉の発達が早く、表現も豊かになります。言葉が豊かになることで考えや、学びが豊かになります。それは人が人らしく生き、社会の中で人と関わりを持って生きるうえで、どれほど大切なことでしょうか。これほどにも大切な言葉の力は、乳幼児期の、親から子への語りかけや、絵本を読んであげるといふ、温かく、人間的なふれ合いを通して得られていきます。

絵本とは、文字を読めるようになった子どもが自分で読む本ではなく、子どもに読んであげることによって生命の通う本です。これは過保護でもなく、子どもが絵本や本と仲良しになっていくための自然な道すじなのです。数は少なくとも真に心に響く絵本に出会うことで、絵本は子どもにとってかけがえのないものになります。

就学前の幼児教室や塾も盛んですが、でも人としての自然な成長にそぐわない人工的な「教育」は実を結ばないばかりか、いずれなんらかのひずみとなって子ども自身に表われるおそれがあります。この年齢の子どもは“お勉強”する時期ではありません。そうではなく近い将来、勉強ができるようになるための土壌を深く耕していく時期です。耕されていない大地に種をまいたところで力強い苗が育つでしょうか。

子どもは今を生きる人です。今を存分に子どもらしく生きることが未来につながるのです。

絵本は子どもに人としての力と恵をもたらします。そしてその副産物のようにして親と子の結びつきを深めていくのです。けれど一方で、この絆を危うくするものも、家庭には存在します。それはスマートホンやテレビなどの電子メディアです。スマートホンで遊ばせ、テレビでもつけていないと子どもとの間がもたない、ということもあるでしょう。でも乳幼児期から、スマートホンやテレビに長時間接していると、子どもの言葉の発達を遅らせ、意欲や集中力や思考力など、人としての力を弱めていくばかりです。

どうぞ、家庭に静かな時間を取りもどして下さい。その静けさの中から、家庭の本来の姿がよみがえってきます。そのようにして、子どもとふれ合い、語らい、遊び、絵本を読んであげて下さい。



片野 英子

絵本のある子育て「子どもの本の童話館グループ」より